

## 2.摂食障害の診断基準 (DSM- ) 1994米国精神医学会

これは医学的診断のために用いられているものです。

### 神経性無食欲症 Anorexia Nervosa

- A . 年齢と身長に対する正常体重の最低限 ,またはそれ以上を維持することの拒否 (例 :期待される体重の85%以下の体重が続くような体重減少 ;または成長期間中に期待される体重増加がなく,期待される体重の85%以下になる) .
- B . 体重が不足している場合でも,体重が増えること,または肥満することに対する強い恐怖 .
- C . 自分の体の重さまたは体形を感じる感じ方の障害 :自己評価に対する体重や体型の過剰な影響 ,または現在の低体重の重大さの否認 .
- D . 初潮後の女性の場合は ,無月経 .つまり,月経周期が連続して少なくとも3回欠如する (エストロゲンなどのホルモン投与後にも月経が起きている場合 ,その女性は無月経とみなされる) .

病型を特定せよ :

制限型 :現在の神経性無食欲症のエピソード期間中 ,患者は規則的にむちゃ喰い,または排出行動 (つまり,自己誘発性嘔吐,または下剤,利尿剤または浣腸の誤った使用)を行ったことがない  
むちゃ喰い / 排出型 :現在の神経性無食欲症のエピソード期間中 ,患者は規則的にむちゃ喰いまたは排出行動 (つまり,自己誘発性嘔吐,または下剤,利尿剤または浣腸の誤った使用)を行ったことがある

### 神経性大食症 Bulimia Nervosa

- A . むちゃ喰いのエピソードの繰り返し.むちゃ喰いのエピソードは以下の2つによって特徴づけられる。  
(1)他とはっきり区別される時間の間に (例 :1日の何時でも2時間以内の間) ,ほとんどの人が同じような時間に同じような環境で食べる量より明らかに多い食物を食べること .  
(2)そのエピソードの間は ,食べることを制御できないという感覚 (例 :食べるのを止めることができない, または何を, またはどれほど多く食べているかを制御できないという感じ) .
- B . 体重の増加を防ぐために不適切な代償行動を繰り返す ,例えば ,自己誘発性嘔吐 ,下剤 ,利尿剤 ,浣腸 ,またはその他の薬剤の誤った使用 ;絶食 :または過剰な運動 .
- C . むちゃ喰いおよび不適切な代償行動はともに ,平均して ,少なくとも3カ月間にわたって週2回起こっている .
- D . 自己評価は ,体型および体重の影響を過剰に受けている .
- E . 障害は ,神経性無食欲症のエピソード期間中にのみ起こるものではない。

病型を特定せよ :

排出型 :現在の神経性大食症のエピソードの期間中 ,患者は定期的に自己誘発性嘔吐をする ,または下剤,利尿剤または浣腸の誤った使用をする

非排出型 :現在の神経性大食症のエピソードの期間中 ,患者は ,絶食または過剰な運動などの他の不適切な代償行為を行ったことがあるが ,定期的に自己誘発性嘔吐 ,または下剤,利尿剤または浣腸の誤った使用はしたことがない

## 特定不能の摂食障害 Eating Disorder Not Otherwise Specified

特定不能の摂食障害のカテゴリーは、どの特定の摂食障害の基準も満たさない摂食の障害のためのものである。例をあげると、

1. 女性の場合、定期的に月経があること以外は、神経性無食欲症の基準をすべて満たしている。
2. 著しい体重減少にもかかわらず現在の体重が正常範囲内にあること以外は、神経性無食欲症の基準をすべて満たしている。
3. むちゃ喰いと不適切な代償行為の頻度が週2回未満である、またはその持続期間が3カ月未満であるということ以外は、神経性大食症の基準をすべて満たしている。
4. 正常体重の患者が、少量の食事をとった後に不適切な代償行動を定期的に用いる（例：クッキーを2枚食べた後の自己誘発性嘔吐）。
5. 大量の食事を嚙んで吐き出すということを繰り返すが、呑み込むことはしない。6. むちゃ喰い障害：むちゃ喰いのエピソードが繰り返すが、神経性大食症に特徴的な不適切な代償行動の定期的な使用はない